

### 思い出永遠に 惜しまれつつ解体



100分の1の模型で復元される修道院

## 旧「修道院」模型で復元へ



# 八重桜

●発行  
桜の聖母短期大学同窓会  
●発行日 平成24年3月1日  
〒960-8112  
福島市花園町3-6  
☎024-534-4572  
(534-7137 短大事務室)

東日本大震災で被害を受けた旧ノートルダム修道院の解体工事(平成23年11月14日に開始)はほぼ終了し、思い出をこめた資料館(仮称)が、短大校舎2階に準備されつつあります。同窓会では、旧修道院のミニチュアを資料館に寄贈する計画



旧修道院への感謝と解体工事の安全を祈る司祭と出席者(11月14日)

を立てました。模型は旧修道院が実物の100分の1、御聖堂が40分の1の大きさです。  
なお、解体の日程変更に伴い、5月4日に予定されていた「お別れ会」は中止となりました。ノートルダム修道会来日80年の感謝の祈りは、来日当日の10月20日に、修道院が主体となつて行われます。



桜の聖母短期大学同窓会 会長

小林 静

(英語学科22回生)

### 時代の必要に添えていく活動を

このたび同窓会会長の大役をお引き受けいたしました小林静でございます。ごっそりしくお願ひ申し上げます。

昨年3・11東日本大震災において、被災されました皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。会員の中には原発事故の影響で避難生活を余儀

なくされている方もおり心が痛みます。一日も早く復興し震災前の生活に戻れますようお祈りいたします。

さて、今年は桜の聖母短大の設置母体コングレガシオン・ド・ノートルダム5人のシスターが、はるばるカナダから来日し、この福島に居を

構えた、来日80周年の年です。旧修道院(マルグリット・ブルジョワ・センター)は、震災の被害で、取り壊されましたが、学生時代に蒔いていた愛と奉仕の精神の種は、私たちの心の中に深く根つき、大輪の花を咲かせています。

復興元年のこの年に、80年前に来福し、信仰と教育の礎を築いて下さったシスター方のご苦労と献身を偲び、感謝しながら新しい時代の必要に添えていく同窓会活動を展開していく

所存でございます。愛と奉仕の精神」を根底に、聖母ファミリーの絆が更により強まりますよう、母校がますます発展し地域社会に貢献できますよう会員の皆様と一緒に励ましていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**56回生の皆様へ**  
ご卒業おめでとうございませう。皆様の上に神様の祝福がたくさんありますように。お元気で活躍ください。

## 55回 生進路

### 平成22年度卒業生の就職先【産業分類】

製造業	(株)グリーンハウス、コープ食品(株)東北工場、(株)菜花堂、(株)蔵王ミート、シダックス(株)、他
電気ガス・水道業	(株)アポロガス
運輸・郵便事業	国際空港事業(株)、東都観光バス(株)、福島交通(株)、他
卸売業・小売業	(株)スズキ自販福島、福島中央青果卸売(株)、東北コピー販売(株)、福島日産自動車(株)、他
金融・保険業	(株)北日本銀行、(株)七十七銀行、福島商事(株)、他
不動産・物品賃貸業	(株)サンクスホーム
学術研究・専門・技術	会津大学、福島県立医科大学、渡辺健寿法律事務所
生活関連業・娯楽	TBCグループ(株)、(株)ニラク、(株)ヘガスベガス
教育・学習支援	西部三育幼稚園、福島わかば幼稚園、みその幼稚園、他
医療・福祉業/医療	あづま脳神経外科病院、板倉病院、オリンピア眼科病院、おの整形外科クリニック、公立岩瀬病院、近藤眼科、他
医療・福祉業/福祉	あいあい保育園、会津婦人会保育園、ひまわり保育園、他
医療・福祉業/栄養士	北福島医療センター、さくらんぼ保育園、須賀川病院、他
複合サービス業	伊達みらい農業協同組合、みちのく安達農業協同組合
サービス業	キョウワプロテック(株)、(株)摺上亭大鳥、(株)クリフ、日本マクドナルド(株)、(株)七福人、(有)吉川屋、他
公務員/国家公務員	自衛隊
公務員/地方公務員/保育士	郡山市、福島市、本宮市、田村市(臨時)、二本松市(臨時)
公務員/地方公務員/幼稚園教諭	桑折町(臨時)、伊達市(嘱託)
公務員/地方公務員/一般行政事務	福島県(一般行政・初級)、福島市(一般事務・臨時)

### 平成22年度卒業生の編入状況

大学名	学部	人数
筑波大学	情報学群	1(1)
宇都宮大学	国際学部	1(1)
埼玉大学	教養学部	1(0)
山形大学	人文学部	1(1)
福島大学	人間発達文化学類	5(5)
福島大学	行政政策学類	1(1)
岩手県立大学	社会福祉学部	1(1)
東北学院大学	文学部	1(1)
石巻専修大学	理工学部	1(1)
宮城学院女子大学	学芸学部	1(1)
共立女子大学	国際学部	1(0)
東京女子大学	現代教養学部	1(1)
日本社会事業大学	社会福祉学部	1(0)
麗澤大学	外国語学部	1(1)
恵泉女学園大学	人間社会学部	1(1)
拓殖大学	外国語学部	1(1)
人間総合科学大学	人間科学部	1(1)

(編入学合格者数21名、うち入学者18名)

### ～桜の聖母生涯学習センターの今～

お問い合わせ先/TEL 024-535-2531



生涯学習センター  
センター長補佐・研究員  
三瓶千香子

2012年、桜の聖母生涯学習センターは開設20周年を迎えます。さらに、東日本大震災後の東北を復興すべく、行動に移す年でもあります。そこで、センターは、知的学習欲のある地域の方々の来学を待たずばかりではなく、外へ、外へ」の意識を改めて強く持とうと決意しました。もったいない、2012年度は「外へ」の心をいかに持っていたら追いかけていくか、プログラムにもなっています。

2012年度総合講座では、「安心して悩める地域へ」がテーマです。悩んでいるの、それが人間です。問題は「安心して悩める地域になつているかどうか、なのです。そんな地域にしていきたいと呼びかける講座をたくさん設けています。さらに学びを、実際の行動へ移せるカリキュラムを用意しています。「傾聴ボランティア養成講座」です。地域づくりを積極的に、行おうとする強い意志の方々の理論と実践でサポートしていく人材育成講座です。

まさに、生涯学習センターは「学びの拠点」であり、「アウトリーチ」の拠点となりつつあります。安心して悩んでもいいですよという声を発する拠点。これを目指します。

### 安心して悩める地域の拠点へ

## お知らせ

事務局より

### ■あかしや祭

来年度のあかしや祭協賛については同窓生のための集いの場にしたいと考えております。例年と違った活動にしたいと思っておりますのでご協力よろしくお願いいたします。

### ■いこいの広場

日程等が決まり次第ホームページでお知らせします。

詳細は事務局にお問い合わせください。

### 編集後記

大震災の渦中に新役員で踏み出しました。No.34号「八重桜」縦書きの紙面にしてお届けいたします。発行にあたりましては、多くの方々のご指導、ご協力を賜りました。関係各位に心から御礼申し上げます。

## 第31期通常総会

### 事業計画、役員決まる

第31期通常総会は、平成23年6月5日に桜の聖母短期大学に於いて、名誉顧問Sr.柴山恵子理事長、Sr.柴田香代子学長代行、同窓会担当の影山マチ子先生をお迎えし、新役員選出、会報の発行などの事業計画、短大・生涯学習センター等への支援事業計画を決めました。



総会終了後、東日本大震災で卒業式を挙げることでできなかった55回卒業生謝辞発表が行われました。3ヶ月遅れではありますが先生方や会員の皆様方に祝っていただきました。

### 第31期同窓会新役員 (任期2年)



会長	小林 静
副会長	22 E 星 万弓
副会長	21 D 羽二生厚子
副会長	26 K 紺野 眞弓
会計長	18 E 吉田裕美子
監事	14 D 佐々木利戸
監事	15 K 岸 知子
監事	1 E 阿部 力ネ
監事	2 E 岡田 洋子
監事	6 E 平田 泰子
監事	12 K 斎藤 良子
監事	15 E 村上 優子

# 第3回ホームカミングデー 2011.6.5

## 卒業50年 古希祝 卒業40年 還暦祝



於：短大正面玄関前

### 恩師を囲み和やかに

5E 片倉美和子

広い会場の前中央に設けられた私達の席。この席をマザー今泉と共に50年前の級友が丸く囲みました。先生は背筋も伸び、声も若々しく嬉しい限りでした。

一人一人の近況報告では、辛い経験もさりと話せる年齢になったことを知りました。

5Eは、原発事故で出席辞退もあり、出席5名でしたが、車で別れるまで余韻を楽しみました。



### 学生時代に戻り談笑

6E 佐々木久子

古希を迎えた年齢に達したことに戸惑いを感じる一方、母校を懐かしく思い感謝の気持ちでいっぱいです。震災の影響もあり6回生は13名の出席でしたが懐かしさで皆興奮気味。美味しいお料理や恩師にお目にかかり温かいお祝辞、会からの記念品を頂きすっかり学生時代にタイムスリップ。



夜は飯坂温泉に宿泊しました。

### 「愛と奉仕」思い新た

15K 森 和枝

ホームカミングデーに出席させていただきまして、諸先生・先輩・後輩の方々とも温かく心地良い雰囲気の中で時間を過ごす事が出来、桜の聖母で過ごした2年間は本当に素晴らしくなんと密度の濃いものであったと確信いたしました。



これからの校の聖母の卒業生として、社会の中で何かの役にたつ事が出来、また「愛と奉仕の精神」を持って日々精進していきたいと思います。

### 笑顔のホームカミングデー

16D 小泉 玲子

還暦という節目に大震災が起き、忘れられない年となりました。そんな中、40年ぶりに会う16回生、科が違っていてもすぐに打ち解け、昔話に近況と会話が弾みました。



先生方や級友の沢山の笑顔に接する事ができ嬉しく感謝の一日でした。

### 第55回生 英語学科

猪本 恵美

2年間の総括であり、人生の節目でもある卒業式を迎えることなしに聖母を後にした私達、第55回生は、どこかやるせない思いを持ち続けていました。そんな時、先輩方のご配慮により、卒業を祝う機会を持つことができ、友人や先生方へ言い残していた感謝や別れの挨拶を述べることができ、晴ればれとしました。

また、あの式を機に再び卒業の喜びを友人と共にかみしめることができました。

あのような場を設けてくださった先輩方に、心から感謝します。



### 第31期通常総会に招待した第55回生から感想がよせられました

校の聖母短期大学同窓会総会

第55回生 生活科学科食物栄養専攻 伊藤さつき

大震災により卒業式で謝辞を読むことができずでしたが、卒業生に謝辞を送って下さり、ホームカミングデーで発表する場を設けて下さったとても嬉しかったです。支えて下さった全ての皆様に言葉にして伝えたいという思いがあったので、読んだ後は達成感と感謝の気持ちでいっぱいでした。貴重な経験をさせていただき、心から感謝申し上げます。

### 沖方 丁 講演会



平成23年7月30日に短大に於いて、「沖方 丁、その世界一本と学びへのいざない」と題し講演会が行われました。参加者140名で講演会後のサイン会も大盛況でした。

### 花壇整備

同窓会では、毎年春と秋の2回花の植替えをしています。学生通用門と生涯学習センター南側入り口前にプランター2鉢ずつ置いてあります。尚、短大正面玄関前の花壇整備の支援も行っています。

### いこいの広場

―なるほど聖母の命―



花園町修道院御聖堂にて

日々の忙しさの中で疲れた心を癒す「第6回いこいの広場」が、平成23年10月29日、花園町修道院長Sr.今泉ヒナ子先生をリーダーにお迎えして参加者17名で開催しました。「なるほど聖母の命」のテーマに基づいて聖書朗読・心の体操などがあり、東日本大震災で奪われた多くの命の大切さを考えさせられました。自分の心と向き合う時間を持つことができ、有意義な一日でした。

### あかしや祭

バザー会場



コーヒーコーナー

あかしや祭が平成23年11月6日開催され、同窓会ではバザー、コーヒーカーナーで参加しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、沢山の方々に来ていただき盛況でした。今回のバザーには、同窓生からの

### 一本松支部設立

設立準備委員長 2E 岡田 洋子

平成23年10月22日同窓会一本松支部(大玉村、本宮市を含む)の発会式が二本松市民交流センターで開催されました。同窓会からは小林静会長をはじめ今泉ヒナ子修道院長、柴田香代子元学長、同窓会役員、顧問の皆さんから励ましの言葉をいただき感謝の船出となりました。



式後、大山忠作美術館で芸術鑑賞を楽しみ実りある発会式を終えることが出来ました。お発会にあたり、お力添えをいただいた前会長平田泰子さんと実行委員の皆さんに感謝申し上げます。



桜の聖母短期大学 学長

遠藤 静子 CND

## 学長就任にあたって、「育てたい学生の姿」を思い描く

私たちは、2011年3月11日、14時46分、体験したことのない規模の大震災に遭遇し、間もなく一年を迎えようとしています。

この震災で、私たちの「死生観」は、根底から変えられました。人間の小ささを実感し、自然や人々と共生することを強く意識させられました。学生は、つらい経験を通過して、現実を直視し、ひとまわ

り大きく成長して、頼もしくなりました。10月から短大の責任を持つことになった私は、「震災後をどのように生きるべきか、何をなすべきか」と問っています。私の信仰は、「人生に起こることには、必ず意味がある」と教えてくれるからです。この「時のしるし」から何かを読み取り、行動していきたいと思っています。

今、在学者は376名。転学や退学をする学生はありませんでした。放射能という、先行きの見えないう不安と闘いながら、耐えて、頑張っている学生たちは、東北の復興に確かに力になるでしょう。今後しばらく、福島で学ぶ学生が、震災前より減少するとしても、私たちは、創立当初の気構えと熱意に立ち返って、再生を図る時であると考えています。

創立期の桜の聖母短期大学は、「専門的能力と技能・人間的強さと品性、国際的センスと語学力」を身につけて、保護者や周囲の人にもそれが見える教育をしてきました。今、私がイメージする「桜の聖母短大で育てたい学生の姿」は、創立のときのこのイメージにあります。

○主体性を発揮して生きる、「強い女性」  
○学生各自のいのちの中にある、「なりたい自分」のイメージをもち、あきらめないで自分の使命を生きる女性  
○学問と実生活をしつかり繋げられる実践的女性です。  
さあ、新しい生命を受けて、歩き続けましょう。